

またあいつ

題字 宗像 精

第82号
令和5年3月4日
発行者
福島県公立学校
退職校長支会長
北会津支部長
星 憲 隆

久しぶりのクラス会

副支部長 栗原孝明



大学時代の友人から手紙が届いた。コロナ禍で中断していたクラス会(学科会)を再開しようという内容だった。普通、クラス会というと最初から宴会モードなのだが、我々のはちょっと違っている。大学の一室を借りて、各自が簡単な近況報告をやってから、先生や同級生の講演などが催される。その後、希望者のみが居酒屋に繰り出すというパターンである。

きたものの、感染はまだ増傾向にある。迷ってそのままにしていたら、メールで催促が来た。我々が使っていた校舎が取り壊されるという。昔使っていた校舎を見学できる最後のチャンスだから是非出てこいというのである。

それでは出席ということにしたが、なかなか障害が多い。もう三年近く公の交通機関に乗っていない。駅の券売機の前で右往左往することになる。おまけに、一月ほど前から膝に痛みが出て階段の上り下りに苦労する。乗り換えのたびにエレベーターやエスカレーターを探してウロウロする。いつの間にかすっかりお年寄

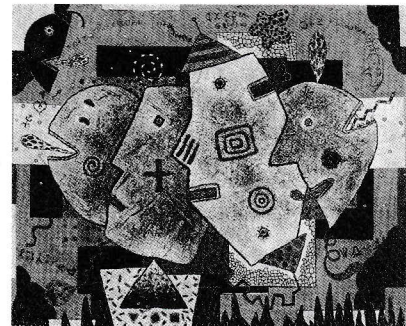
りの旅人になってしまっていた。

それでも、何とか母校の大学へとたどり着く。大学は文化祭で一般公開の最中である。学科の後輩の出勤を見つけて声をかけてみる。生まれる遙か前の先輩の出現にびっくりされる。

さて、集まった二十名ほどが借りてあった階段教室へとしげ込む。恒例の一人五分の近況報告が始まる。しかし、年寄りの話は長い。ダラダラと前回と同じような話を繰り返すから、時間があつという間に過ぎていく。今回は講演は無しで、取り壊される校舎の見学である。我々の研究室があった所は、教養の先生方の部屋になっていた。それでも、何々研があった所だとか、この教室を使っていた等と言いながら見て回ることが出来た。今回は、居酒屋へ向かう仲間達と別れて、まっすぐ帰って来た。また、来年も開催すると言うが、果たしてまた行くことが出来るだろうか。

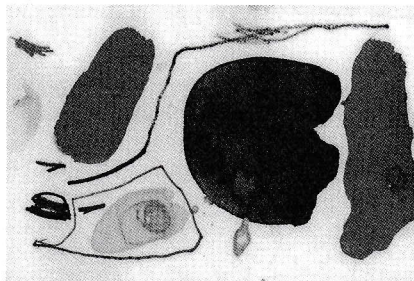
悠悠美術館

イロイロナキモチ 馬場 泰



イロイロナキモチ2022- 2 (F130号) 泰

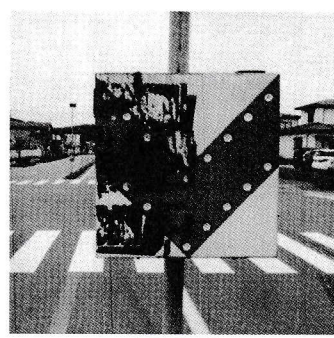
令和四年、第七十五回記念二紀展に出品した作品は二つの出会いから生まれました。一つ目は、五歳の女の子のはがき絵です。色彩と形、線の面白さ、美しさに今まで経験したことがな



5歳児のはがき絵 (いろんなきもち)

いほどの感動を覚えました。「気持ちも絵になるんだ。」と教えてもらいました。

二つ目は、信号待ちで停車していた車の窓から見たVの形が入った交通標識です。「この形だ、私が描きたい気持ちの絵は。」



交通標識

描き始めたのは、ロシアが侵略戦争を始めた頃でした。人間は、顔形が皆違いうように、心の中、気持ちも皆違います。喜怒哀楽、趣味、思想、信条等すべて違います。個人レベルでも国家レベルでも、その人間の気持ち次第でいろいろ変わります。二十一世紀の現代に戦争を引き起こす国が現存するという現実、とらえどころのない人間の「イロイロナキモチ」を造形的に表現しました。

現職・退職校長会 教育懇談会

令和四年度現職・退職校長会の教育懇談会は、去る十一月十九日(土)河東学園において、退職校長三十一名、現職校長三十八名が参加して開催された。

小林義弘北会津小中学校協議会長のあいさつに引き続き、会津教育事務所長の来賓祝辞をいただいた後、実践発表が行われた。開会式、実践発表は、リモートで実施した。

《実践発表の概要》

「コロナ禍における学校の現状と学校経営」

城西小学校長 横山譲治

一 感染対策と教育活動の着地点の模索

① 朝の挨拶運動 登校する一年生もPTAの方もマスク着用。入学以来出会う人の顔が、上半分しか見えない状況が発達に影響はないか。

② 運動会 競技の時はマスクを外すが、その他は再着用。応援は拍手。我慢してと指導するのが切ない。

③ 給食 会話を控え、黙食。

④ 卒業式 別れのことばも歌もマスク着用。外すのは入

退場と卒業証書授与の時のみ。
二 校長として試行錯誤している三つの観点

① プログラミング的思考とともに対話を組み込んだ学習のバランスをとりたい。特に国語の授業では、対話の質を高める時間を確保したい。

② コロナ禍で発表の場がなくなるが続いた。日々必死で努力している運動部、合唱部、合奏部、情熱を持って指導してきた教員の思いを燃焼させる場を設けてやりたいと着地点を探している。

③ 感染対策のため、地域団体との会合が着任からゼロであったが現在少しずつ持続的な取り組みが見え始めた。今後地域とのつながりを強めていきたい。

「学校の現状、工夫した学校経営」

第五中学校長 玉木敏彦

◇ 令和四年四月以降、じわじわとコロナが押し寄せて来た。学校としては、工夫しながら運営に当たった。

① 入学式 来賓はPTA会長、後援会会長の二名。挨拶文は、紙面上の紹介。校歌披露の削減。

② 集会活動等 定例集会は、

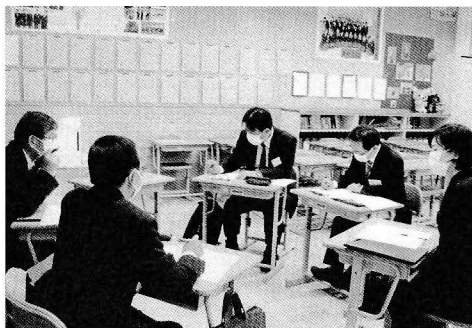
放送。生徒会総会や選手壮行会は、三年生で。一、二年生は、オンライン配信。

③ PTA総会や授業参観 一家庭二名まで。事前に体調チェックシートを配布。当日受付で体調の確認。

④ 給食 黙食。コミュニケーションのとれない淋しさが続く。

⑤ 七月〜八月 本校に第七波到来。朝から晩まで市教委との連絡。メール配信業務。吹奏楽コンクールの出場辞退に生徒は大泣き。九月には晴れて出場。笑顔が忘れられない。

⑥ 修学旅行 東京方面 班別自主学習 感染症対策をしっかりと行った上で実施できた。



分科会での熱の籠もった話し合い

⑦ 学習面 英語の口形指導に於けるデジタル教科書やタブレットの有効性が分かった。
◇ コロナ禍にあっても、コロナと共に、地域と共にみなさまと共に一歩ずつ着実に前に進んでいきたいと思う。

《グループ別討議》

「子供たちの学びを止めないコロナ禍における学校経営」
代表校の発表後、中学校区を基本とした七グループに分かれて協議が行われた。

ウィズコロナも三年目となり、各学校では基本的な感染対策の徹底、二酸化炭素濃度測定器やアクリル板の活用、スクールサポートスタッフによる消毒、オンラインを活用した集会活動、感染拡大防止を考慮した体験活動や部活動、学校行事の実施など、子供たちの学びを止めない教育活動が行われていることなどについて話し合いが行われた。

課題として話し合われたことの中からいくつかを紹介する。

① 子供・教職員のコミュニケーション

オンラインコミュニケーションの限界や給食時の黙食など子供同士の交流が不足してい

ること、また教職員同士の公私におけるコミュニケーションも少なくなり、チームとしての協働をどのように構築していくかも課題である。

② 学校における伝統や文化の継承

学校では上級生の姿を憧れとして伝統や文化の継承が行われている。コロナ禍で全校生が一堂に会することや縦割り活動が制限され、映像でその姿を見ることはできても、情熱や思いなどを対面の交流を通して受け継ぐ機会が減少している。

③ 家庭・地域との連携
学校運営協議会が設置されている学校や統廃合に向けた取り組みが進められている学校もあり、地域との連携は大変重要である。地域と「どのような子供を育てていくか」を共有し、小・中九年間のカリキュラムマネジメントを具現化していくことが重要である。

まとめとして、時代の変化に対応しながら、学校の使命を共有し、子供の学びを止めないチームとしての学校経営の重要性を再確認した話し合いとなった。

温かい小さな手

大木 芳孝



現在、三世代七人家族の生活である。孫三姉妹（小三、幼双子）で、家族間の

関わりが多くあわただしい。今は核家族の世の中になり、お互いに干渉し合わない時代になってきている。

でも毎日が「ジジ」「ババ」と頼られる生活である。息子夫婦は仕事があるので留守を預かる者の出番である。現職の頃、職員が、「子どもたちを保育園に送ってから出勤するのは大変。家に誰かいてくれたらな」と、話すのを聞いていたの

で、家を預かる者として家族の役に立ちたいと思っていた。我が家は、分担、協力し合う大切な場にもなっている。

かつて私は農山村に育った。やはり三世代八人家族で、食事の時は飯台二つが必要だった。

近所周辺も同じような大所帯だった。田植えの時は家族総動員の作業で、うらやましい光景が見られた。

随想

遊び場は神社で、誰かしら遊んでいて、いつも楽しく過ごすことができた。

しかし現在は閑散としていて草だけが生えている。何故こんなに子供が少なくなり、寂しくなったのだろうか。

孫と両手をつなぎ、会話をしながらの幼稚園送迎は楽しい。小さな手のぬくもりは、よき未来を伝えてくれる。

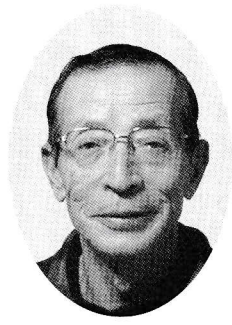
三人の孫が揃うと、ジジとババを囲むように寄ってくる。幼稚園や学校の話を満面の笑みを浮かべて話す孫との会話が至福の時だ。

のんびりした生活よりも足繁く動き回る生活がいい。ランドセルを背負う姿もいい。家の中を「バタ、バタ」と走り回る音も：

きずなを大事にし、小さな手が大きくなるまで、しっかり見守っていきたい。

生きる喜び

成田 正守



誕生日で七十七歳、喜寿を迎えました。寿命百歳の今日、余生をどう生きるか「日々、生き甲斐をもって健康で過ごしたい」これが私の願いです。

そのためには、心身の健康がとても大事です。体の健康作りでは、毎朝、二キロメートルのウォーキング、広い大きな我が家の掃除、ラジオ体操等、積極的に動くことを心がけています。次に、心の健康面では好きなことを実行しています。

登山、スキー、合唱、フルート等楽しんでいきます。今年、孫と磐梯登山をしてほしい思いが出来ました。心身の健康が働くことこの原動力となり、生業である農作物作りに励んでいます。

作物を育てることは、難しくもあり、喜びでもあり、達成感があります。日々学ぶことが多いです。

会津みしらず柿作りを本格的に始めて二十年になります。柿作りは、一年中仕事があります。剪定作業から始まり、草刈り、摘蕾、消毒、肥料散布、摘果、収穫と一年に亘る作業になります。天候にも左右され計画通りにはできません。二本程の木がありますが、生育状況が異なり、形も大きさも違い、一様の対応は

出来ません。一本一本の状態を知り対応しなければなりません。対話する必要がありません。話しかけると黙って応えてくれます。それを見極めることが大事です。ようやく、少しずつ軌道に乗って来ました。

お手伝いさんは、六名雇っています。一人一人に責任感を持たせることにより、慎重に作業を行い、安心して仕事を任せることが出来るようになりました。時折、作業場から和やかな会話、笑い声が聞こえて来ると、

経営者の私としては、何よりの嬉しさを感じます。

顧客の方々から電話をいただきます。「柿届きました。大変美味かったです。来年もよろしくお願ひします」この言葉は、何よりのご褒美です。来年の大きな意欲にもなります。

長男が定年を迎え、後を継ぐまでは、自分の余生の生きる喜びの仕事として楽しんで過ごしていきたいです。一日一日生きていく喜びをかみしめながら。

福祉部の活動 に参加して

行仁小学校見学

昨年度も計画し、コロナ禍で実施できずにいた行仁小学校訪問が夏季休業中の八月九日に実現し、十八名が参加した。

一、学校経営について

星支部長のあいさつに続き、篠崎俊樹校長より学校経営について説明を受けた。

行仁小学校は、教育目標

「心豊かでたくましい子」の実現に向け、校訓「徳を以て仁を行う」を土台に、全職員が一丸となり「チーム行仁」を合言葉に教育に当たっている。今年度も、「あいさつ・発表・目標」

を一人ひとりが自慢できる素敵な学校づくりを重点目標にして取り組んでいる。地域学校協働活動も盛んで、滝沢コーディネーター

や多くのボランティアの方々に、子どもたちの学びを支えていただいている。



屋上に造られたプール

二、校舎建築の圧巻の工夫

校舎内は木材をふんだんに使用した広々とした空間が広がっており、清々しさを感じた。それは、敷地の狭さを克服する建築上の驚きの工夫があるからだ。校舎は、ロの字型になっており、回遊することができる。一日の大半を過ごす学年の教室は日当たりのよい南側に配置している。さらに、教室や体育館、グラウンド

に十分なスペースを最大限に確保するため、屋上にプールが設置されている。会津では初めての試みである。参観者からは、「都会のようになされた造りだ。でも、下の階に水漏れの心配はないのかい？」等の質問が出

ていたが、防水加工が十二分に施され、心配はいらないとのことだ。また、トイレの雨水利用、太陽光パネルの設置等、SDGsを実現する設備も作られている。

地域のコミュニティの核を担う複合型施設として建設された校舎は、体育館に続き、音楽室やメディアスペース等の地域への開放も計画されており、多世代の人々が集う場として今後活用されることだろう。

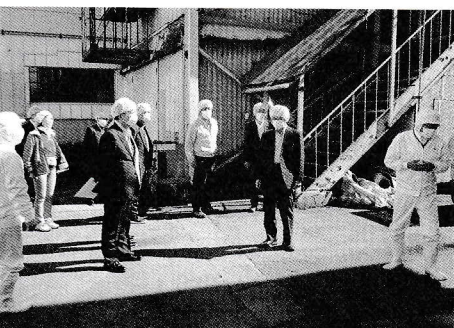
三、見学を終えて

コロナ禍の中でも、子どもたちの豊かな成長のために奮闘する学校の姿を垣間見、我々も最大限支援していかなければと感じた。

退職校長会

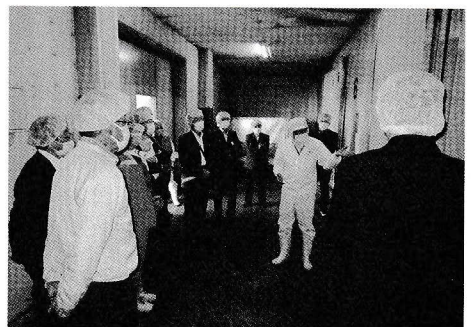
憩いのつどい

穏やかな陽が差す十月十八日火曜日、今年の「憩いのつどい」は「会津大宝醸造株式会社」で開催された。「味噌は日本全国で作られ、地域の特徴が色濃く出ています。郷土料理を支える食品です。弊社では近年、漬



工場見学に出発！

物はもちろん糀を使った関連商品を開発し全国展開を図っています。次のステージは海外の日本食レストラン増加を踏まえ、海外進出も視野に・・・と、ご挨拶の中で満田盛護社長は熱く語った。驚くのはこういった事業展開を推し進めるにあたり、文科省科学技術・学術政策局や様々な研究機関・研究者と共同していること。さらに世界中の様々な研究成果を探り、歴史的な経過も踏まえ、健康的な生活をどう創り上げるのか、メリットもデメリットも十分に踏まえて緻密な戦略を打ち立て進めていることだ。創業明治四年という老舗の



クラシック音楽を聴かせる発酵室

座にあぐらをかかず、コンピュータ制御の導入、作業動線の研究等にも力を入れ実績を積み重ねている。

工場見学では、より品質のよい大豆の仕入れ、その大豆のうまみを最大限に引き出す製造過程の工夫、クラシック音楽を聴かせる発酵室や冷蔵室、清潔な空間を保つための履きの廃止や防虫フィルムの設置等々、ここでも会津大宝の皆さんの誇りと情熱を改めて感じさせられた。

参加した十二名誰もが何か清々しく、直向きに生きることへのエネルギーを頂いたように感じたつどいとなった。

心のおもむくままに・・・

小 関 れい子

「頃は 戊辰の 仲の秋・・・」
 会津大津絵という白虎隊の勇士の唄である。退職して、ひよんな縁で全く初めての民謡を始めることになった。「小学校の歌唱のようだ」と言われながら、民謡独特の声の出し方や「こぶし」などの技を練習してきた。ボランテアで施設巡りも経験した。喜んでいただけるとこちらも遣り甲斐を感じる。

民謡は、「長物」と「調子物」に分かれ、祝い唄など様々な種類がある。会津には、酒造りに因んだ「会津酒屋仕込唄」や「会津酒屋配すり唄」などがある。民謡は、その土地土地の生活や文化が映し出されていて、大変興味深い。

また、たくさんの方々との新たな出会いに大きな刺激を受けている。

一方で、会津ユネスコ協会で「子どもユネスコ教室」の授業を北会津地区を中心に毎年三校ずつ実施している。訪問先では、三十年前の新任の先生が今では立派な校長先生になられ、懐か

しく言葉を交わす楽しさも頂いた。

未来を担う子どもたちと授業ができるのが、心から嬉しい。私は、「人生は一度。命は一つ」の言葉を胸に抱いて来た。小学校二年生の時、二つ上の兄が、一緒に出掛けた子ども会で帰らぬ人となったからだと思う。

この先いつまでできるかは、天に任せ、孫や母を世話しながら、今を楽しみながら暮らしていきたいと思う。



庄内おばこを熱唱

悠 悠 ひ ろ ば

夢追う・・・オンライン英会話

成 田 力

若い時から英会話ができるようになりたいと思っていた。以来、その思いを細く長く持ち続けていた。だからラジオ英会話だけはぼんやり聞いていた。

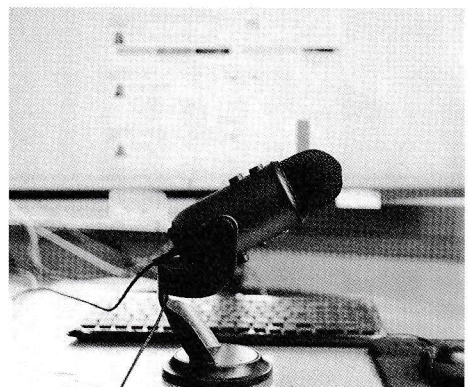
さて、現役を退いて、何をしたいか、自分の心を覗き込んだとき、心の隅にしまい込んでいた英会話を見つけ、英語の学び直しを決意した。

英単語、英文法、発音等学ぶことが多岐にわたる。悪戦苦闘しているときである。

帰国した娘のひと言。「若い人はオンライン英会話やっているよ」私はすぐ飛びついた。レアジョブのビジネスコースに申し込む。マイクとカメラを買ってレッスン初日を迎える。

レッスン開始一分前。先生が画面に出てくるのを待つ。少し緊張する。先生が現れる。画像も音声も鮮明である。先生を独り占めしてのレッスンは始まる。二十五分間。あつという間だった。理屈なしに（めっちゃ楽しい）。

しばらくして、オンラインの



愛用のレトロなマイク

利用の仕方を変えた。今は事前に英作文をし、それを先生に文法的に正しいか修正してもらう。レッスン前の事前の準備に時間をかけ、レッスンに備える。そうすることで、受動的から能動的になり、私から先生に話すことが多くなり、アウトプットの時間を多く確保できる。

安価で革新的なツールであるオンライン英会話を生活の中心に捉え生活が回っている。現在、三百五十六回。私は英会話学習を最大の自己投資だと考えている。

今日も夕方五時に予約を入れている。

コロナ禍の教育現場からの報告

未来に向かって

福島県立会津高等学校

校長 鈴木 義 祐

本県の少子化は、急激なスピードで進んでおり、それを踏まえて、県立高等学校の統廃合が着々と進められています。会津地区においても、既に喜多方と喜多方東、大沼と坂下が統合となり、令和五年度は、田島と南会津、会津農林と耶麻農業が統合することとなっています。また、地域の実態を考慮して、一学年クラスでの学校継続という例外措置の対象となっている高校もあり、西会津、川口、只見、猪苗代の四校です。

一方、私立高校の募集定員には大きな減少はありませんので、会津地区の県立高校では、会津若松市内以外は、いずれも大幅な定員割れとなっており、学力低下

はもとより、部活動の維持・再編も喫緊の課題となっています。

このような中、教員に求められる職務は増える一方です。教員の多忙化解消が深刻な課題となっています。加えて、今なお終息の兆しが見えない新型コロナウイルスについて、教室等の消毒や昼食の黙食指導等の感染防止対策はもとより、陽性者が出た場合の濃厚接触者の特定や臨時休業等の判断等、過去にはなかった職責も果たさなければなりません。教育は本来三密が特徴であることから、頭を痛めているところです。

現在の高校生は、まだ十数年という短い人生の中で、東日本大震災と新型コロナウイルスという未曾有の二つのアクシデントに見舞わ



白虎隊墓前祭での剣舞奉納

れておりますが、そのような中においても、一人一人にとってかけがえのない高校生活三年間であることに変わりはありません。生徒の高校生活の充実と進路目標の実現を図ることは勿論のこと、復興に取り組みむ本県を、ひいては混迷を極める世界における日本をたくましく切り拓いていく若者を育成するため、各学校在「主体的・対話的で深い学び」の推進やICT教育の充実等に日々懸命に取り組んでいるところです。

退職校長会北会津支部の皆様にも、貴重な経験を有する先輩教員として、様々な視点から各学校に御助言をいただければ幸いです。

本校の取組について

福島県立猪苗代支援学校

校長 猪俣 康彦

も検討しなければなりません。が、できるだけどのようなしたら実施できるかという視点で取り組んでおり、その一端を紹介いたします。

本校では、月に一回実施している全校朝の会を毎回リモートで行っています。

実施当初は、新型コロナウイルス感染症対策で児童生徒の密を避けるためのものでしたが、現在は、タブレット端末が児童生徒一人一人に配置されている状況で、それらを積極的に活用するという目的もあります。児童生徒は、タブレット端末を自分で操作して参加しており、主体的な朝の会の運営につながっております。

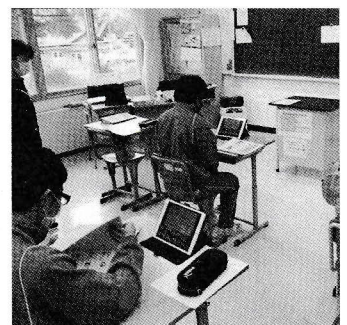
次に、本校の中学部では、年四回磐梯町立磐梯中学校と交流及び共同学習を行っており、そのうち二回はリモートで実施しております。

これによって、感染状況に左右されずに計画的に実施することができ、リモートで自己紹介等のコミュニケーションをとることで、互いの学校を訪問した際には、

すぐに子どもたちの緊張も解け、主体的に交流することができそうです。これからもタブレット端末の活用や交流校・地域との連携を通して、本校ならではの学びの変革を実現してまいります。

さて、本校では、本県特別支援教育の基本理念である「地域で共に学び、共に生きる教育」の実現のため、地域支援センター「はあとふる」を設置しております。

本校に在籍する児童生徒はもとより、会津地区で学ぶ特別な支援を必要とする子どもたちのため、地域の関係機関との連携や相談者のニーズに応じた相談支援等をおおして、乳幼児から学校卒業後までの切れ目のない支援体制の構築に向けて役割を果たしてまいります。



リモートでの全校朝の会

穴澤眞澄

十二年前の「おたより」に書いた「オオヤマザクラ」の花が少し咲き始めました。わずかに二本ですが、夏と秋の二回根刈をしています。「おたより」三回目も書けるといいなと思います。

児島恵子

令和六年に福島県で開催される退職女性校長会の全国大会に向けての準備が佳境。震災時の支援に感謝を伝え、復興の歩みを未来へ繋げようとして前進する福島を見てほしいと願っています。

鈴木兵市

コロナ禍の中、飲み会やゴルフなど外出する機会がほとんどなくなりました。残念です。その分畑仕事に精を出しています。今年の白菜や大根はおいしいと親戚からほめられました。

新國正明

後期高齢となると記憶は衰え物忘れの日が多くなる。忘れないのはゴルフの予定日と購読している月刊誌二冊の発売日。その日が近づくといつもワクワク。ゴルフと活字は私のビタミン剤。

半澤勝士

庭木の剪定に初めて挑戦した。開始後わずか二時間で腕は棒の様になり、翌日は手足共に筋肉痛。一週間経っても半分も進まない。プロ庭師は二日で終えていた。手際の悪さを痛感した。

柏木正義

昔々新採用の頃にお世話になった学校や下宿先を訪ねた。都路の大久保小である。学校はあったが閉校となっていた。下宿先は空き家だった。残念。今度は、御館小へ行ってみよう。

小島靖

二十歳節目の会。再会は五年ぶり。社会人・学生・子育てと様々。面影ある笑顔と懐かしい声。近況報告では凛々しい成人の表情。今回もそれぞれの成長に出会えた節目のひと時でした。

あの方からの



会員の今
思いや願い.....

長谷川昭江

ワカサギ釣りのシーズンがやって来た。八時間釣って七匹だったと言つと驚かれるが、それは結果論である。本人は、一秒後には来るかも知れないと信じてひたすら釣り続けるのである。

目黒和志

毎年六校を巡回しての初任者研修コーディネーターの仕事も三年目が過ぎようとしています。これも間接的に子供たちの教育につながっているのだと思うと大きなやりがいを感じます。

木野秀樹

再任用二年目教諭として磐梯中に勤務しております。責任を果たしているか、甚だ心もとないのですが、健康で、仲間とともに仕事ができることへの喜びを、少なからず感じている所です。

酒井紹雄

朝は、梅づけにお茶、これが我が家の習わし。いつの間にか「薬飲んだ」が加わり、習わしが変わった。外はコロナで覆面、なんと無気味か。一刻も早く安心できる日を待つ昨今です。

園部俊和

町内有志で二年前からペタンクを始めている。六百グラム近い鉄球を投げるのは始めのうちは楽だが八十球位になると腕がしびれてくる。でも、一汗かいた後の気分は何ともいえない。

萬實清一郎

三月に満八十二歳となった。日々弱体化し故障しこんな筈ではなかったと幾つもの医院通い。独楽は止まれば倒れる。気力を振り絞り曲がった腰をのぼしのぼし好きな庭仕事を続ける私。もちろん晩酌も。

目黒則雄

残された人生の日々を有意義に過ごすために、次の五つの「なあ」実現に努めている。それは「①楽しいなあ②嬉しいなあ③素晴らしいなあ④幸せだなあ⑤有り難いなあ」である。

事務局コーナー

○域内市町への要望訪問

・八月十九日(金)
・訪問先

会津若松市教育委員会
磐梯町教育委員会
猪苗代町教育委員会

・訪問者
支部長、副支部長
幹事長、庶務部長

(要望内容)

① 当地区学校教育の復興・創生・充実のため、国及び県との連携の下、将来を見据え、教育諸条件のさらなる整備・充実に努めていただきたい。

② 年金生活者や高齢者の生活の保障・安定を図るとともに、年金制度及び保険・医療・福祉等の充実、退職者の再任用や講師の登用等について、関係機関に強く要望していただきたい。



猪苗代町教育委員会への要望訪問

おめでとうございます

高齢者叙勲で受章された会員

瑞寶雙光章 羽染 健一様
令和4年9月1日
秋の叙勲で受章された会員
瑞寶雙光章 菅家 敏之様

生前のご活躍に感謝申し上げますとともに謹んで、冥福をお祈り申し上げます。

星 孝男様	令和4年7月18日(土)逝去
君 佳明様	令和4年11月21日(土)逝去
弓田 仁様	令和4年12月14日(土)逝去
佐竹 重男様	令和5年1月22日(土)逝去
菅原 治様	令和5年2月10日(土)逝去

◇前号以降の主な活動

○第二回幹事会

・七月十六日(土)
於 北会津公民館

○行仁小学校見学

18名

・八月九日(火)

○第一回理事会

・八月十七日(水)

於 稽古堂

○十七文字ふれあい支援事業(第一次審査) 6名
・九月二十日(金)

於 会津若松合同庁舎

○第三回幹事会

・十月三日(月)

於 河東公民館

○憩いの集い

12名

(会津大宝醸造株式会社見学)

・十月十八日(火)

○現職・退職校長会

69名

・十一月十九日(土)

於 河東学園

○役員会

・二月七日(火)

於 河東公民館

○第四回幹事会

・三月四日(土)

於 河東公民館

クラブ活動を通して

皆さんはどんな趣味をお持ちですか。音楽や芸術鑑賞、囲碁、将棋、ゴルフ、読書、手芸、乗り鉄、撮り鉄、食べ歩きなど多種多様な趣味が世の中にはありますね。一人で楽しむものもありますが、同じ趣味の仲間と語らうこともまた楽しい

スキークラブの立ち上げ 「白銀は招くよ」

川島 宏

ものです。退職校長会北会津支部では、そんなサークル活動を支援しています。さらに、来年度からはサークルを結成しやすくするため、規約の改正を予定しています。

私達は雪国会津に生まれ、子供の頃からスキーに親しみ、現職時代はスキーの指導や大会運営に携わってきました。退職後は一人で思いつきりゲレンデを滑降したり、時にはお孫さんや家族と共に楽しんでいたりする姿をお互いに、よく見かけます。

そこで、総会の時に「結構スキーを楽しんでいる人がいるので、スキークラブでも作って、たまには仲間内で滑りませんか。」と声を掛けるとすぐに十名程が賛同してくれました。

クラブと言っても個人の生活リズムを崩すことなく年一回皆で滑って、夜は温泉でお座スキーをというのが趣旨の会です。

編集後記

この冬はラニーニャ現象などの影響で、厳冬・大雪になると言われ、ドキドキしながら師走を迎えるも、雪のない正月を迎えて、一安心。ビッグデータ活用によるAI時代でも天気予報が・・・というのはいやはり温暖化の影響かと勝手に解釈して心配しています。時候も社会も先の見えにくい時代を迎えていると実感するとともに、それらの流れに自分は適応できるのかと不安を覚える昨今です。

今年度の広報は、記事の内容やフォントの大きさをより読みやすく楽しんでいただけるよう工夫を重ねてきました。兎年は「飛躍」の年と言われますが、広報部も部長を中心に楽しみながら、ほのぼのとしながらも躍動する「陽躍(ひやく)」の年となるような活動を目指します。

本年もどうぞよろしくお願いたします。